

「“人間同士だから何とかなる!” 子どものたくましさにただ脱帽」

—世界に通じる力を育てる—NPO 法人「多言語広場 CELULAS のメルマガ」—第 75 号—

こんにちは。NPO 法人 多言語広場（ピアザ）CELULAS の戸塚です。（以後セルラスと表記します）

今年も 8/3～8/10 の期間「韓国の友だち、アンニョンハセヨ交流」が開催され、小 4 から中 3 の子供たちが韓国のホームステイに参加しました。

9 月前半に関東、関西で行われたホリデースーパーピアザ「夏の大報告会」を皮切りに、これからもピアザ等で自分の体験をことばに紐解き続けながら、子供たちがどんなことを見つけていくかがとても楽しみです。

今回は、小 4 の最年少でこの交流に参加した梓さんと、そのお母さんの体験談をご紹介します。

「韓国の友だち、アンニョンハセヨ交流に参加して」< 諏訪 梓さん（小 4） >

韓国に行ってオンマ（母）に会った時に、オンマとホストのモニカの日本語がとても上手で、同じように韓国語で話すことができないことを、「申し訳ない」と思ってしまって、それがショックだったから、最初ちょっと泣いてしまいました。

その時は、目がかゆいふりをして、目をこすってごまかしたりしました。

でも、私が韓国に行くときに決めた目標は「絶対楽しむ!」だったから、それを考えたら、もう悲しくなくなって楽しむことができました。

韓国語はそんなに話すことはできなかったけど、いろんなことをして伝えたら全部通じたし、オンマ達が言っていることも何となくわかるようになりました。

特に「チャッカマン」ということばを使うとき、最初は意味がわからなかったんだけど、オンマをよく見ると、かならず何かを待ってほしい場面で使っていたから「ちょっと待って」みたいな意味なのかな?と自分の中で思いました。

それで、自分が待ってほしいときに勇気を出して使ってみたら、みんなが待ってくれたので、わかった～と思いました。なんだかうれしかったです。

< 諏訪 玲奈さん（母） >

「もっと韓国にいたかった!」というのが帰国した娘の感想でした。

5 泊 6 日の間、ホストファミリーには本当によくしていただいたんだということが、もうその言葉だけでわかりました。

4 月に娘が韓国に行きたいと言い出したときは、

「海外どころか飛行機に乗ったことさえない小学校 4 年の娘を 1 人で韓国ホームステイに出すなんて、時期尚早ではないか」という思いがあり、参加を即決することができませんでした。

締め切り日が近づく中、ようやく「韓国に行っておいで」と伝えた日、「いいの? やったあ!」と飛びついてきた娘のうれしそうな様子が忘れられません。

そこからの準備と言っても、私がやったことと言えば、セルラス CD ストーリーの中で、この夏の全国統一場面である「自慢の娘」や、ピアザで入会以来取り組んできた場面の CD をひたすらかけることくらいです。

娘は、準備会で立てた「日本でも自分の住んでいるマンションの人に会ったらあいさつをする」という目標を意識して頑張っていました。

親子とも「もっとしっかり準備を、と言ってもいったい何をすればいいんだろう…」と首をかしげる状態でした。とにかく「自慢の娘」だけはやろう、韓国の対面式でプレゼンテーションすることになったから、その準備はストーリーブックの中から言いたいフレーズを探してやろう、というのが我が家のことばの準備でした。

それでも、ピアザや準備会に参加したり、国内ホームステイにチャレンジしたりして、娘が少しずつ心とことばの準備を進めていくのが見て取れました。

私自身は仕事の都合で、ピアザにもしっかり参加できませんでしたので、娘と関わってくださった多くのメンバーが、韓国に行くまでの娘の準備を後押ししてくださったことに本当に感謝しています。

それがなかったら、娘はあんなに安心して韓国へ出発できなかったと思います。

娘は韓国でちょっとホームシックになったようですが、出てくる涙をホストの前で「目がかゆい!」とごまかしてやり過ごして以降は、困ることは何一つなかったそうです。

「そうは言っても何かあったんじゃないの?」と思うのですが、おそらく、彼女自身、精いっぱいジェスチャーやら日本語やら韓国語やら英語やらで、何とかすることができたのでしょう。

「人間同士だから何とかなる」と、行く前にも自分に言い聞かせるかの如くよくつぶやいていましたが、本当に何とかしてきたようです。

ホストのモニカちゃんとは毎日一緒にお風呂に入って楽しく遊んでいたそうです。

「ことばが通じなくても遊べるよ」と言っていました。子どものたくましさ、ただ脱帽です。

一方で、「ことばが通じるってとてもいいもんだなあと思った。もっと韓国語しゃべりたかった」とも。次の課題も見出したようです。

オンマは「梓が帰ってから、モニカはさみしくて泣いてる」と電話で教えてくれました。

そんなにも心が通じ合ったんだと、胸がいっぱいになりました。

今回の経験は親にとっても大きな経験でした。

セルラス、そして、レックスコリアの皆様には心から御礼申し上げます。

いかがでしたでしょうか。小4の女の子が「目がかゆい!」と言って、泣いているのを悟られないようにしている様子、そしてそのあとに目標を思い出して、気持ちを切り替える様子は想像すると胸が熱くなると同時に、人間力を感じます。

彼女がそこに行きつくまでには、ピアザや準備会、そして家庭での心とことばの準備があってこそなのだとしみじみ感じました。

このメールマガジンは、セルラスの会員をはじめ、これまでセルラスが開催した講演会、セミナーに参加されるなど、私たちの活動にご興味を寄せていただいた皆さんにお送りしています。

セルラスの多言語活動や異文化体験、楽しい交流の様子などを、より多くの皆さんに知っていただくために発行しています。

日頃の私たちの活動やご家族で参加していただけるイベントや講演会などのお知らせを、月2回の予定でお届けします。